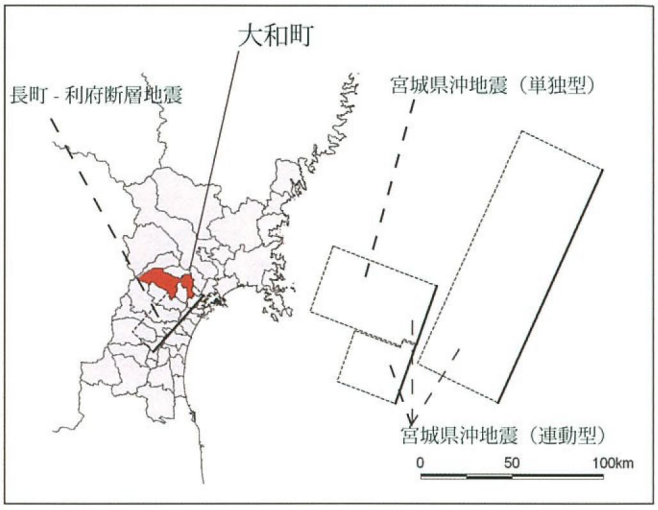
4　揺れやすさマップ

揺れやすさマップは、想定される地震により、町内の各地点（約 100m 四方）がどの程度の強さの揺れ（計測震度）となるかを震度階級で表したものです。

■作成したマップ (想定した地震)



①「宮城県沖地震（単独型)」によるもの

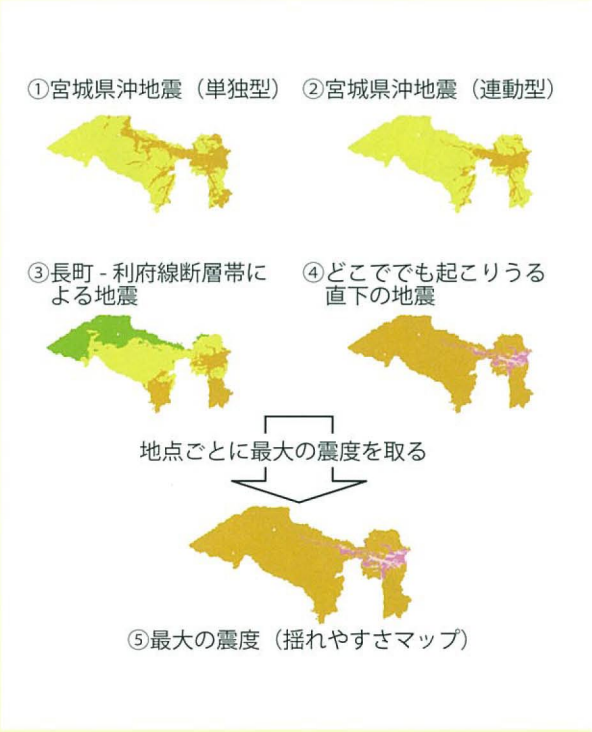
宮城県沖の日本海溝沿いのプレート境界を震源域とする地震です。県内で大きな被害がでた昭和５３(１９７８）年の宮城県沖地震と同様の場所と規模と考えています。平均で３７年に一度、繰り返し起きており、これからの３０年間の発生確率は９９％といわれています。マグニチュード7.6を想定しています。

②「宮城県沖地震（連動型)」によるもの

宮城県沖の日本海溝沿いのプレート境界を震源域とし、単独型の震源域を含む広い領域を震源域とする地震です。寛政5(１７９３)年に同様な地震が起きたのではないかと考えられています。次の宮城県沖地震でも起きる可能性があるとされています。マグニチュード８を想定しています。

③「長町 - 利府線断層帯による地震」によるもの

仙台市から利府町にかけて、ほぼ南北に延びる長さ約４０km の活断層です。この断層は、約３０００年に一度程度の割合で繰り返し地震を起こしているとされ、最後の活動は約２０００年前ではなかったかといわれています。この断層では、マグニチュード 7.1 の地震を想定しました。



④「どこでも起こりうる直下の地震」によるもの

平成１５(２００３）年宮城県北部で発生した地震のようなマグニチュード６クラスの地震の場合、地震断層が地表に現れないケースが多いため、過去の活動を調べることが大変難しいとされています。平成２０(２００８)年岩手・宮城内陸地震でも同様の特徴がありました。こうした地震はいつ、どこで起こるかわからないのが現実です。そのため、防災上の可能性として、町内全域の直下にマグニチュード 6.9 の地震を想定しました。(内閣府の「地震防災マップ作成技術資料」を参考として作成しています。)

⑤「想定する４つの地震の最大値」によるもの

①～④の地震による震度のうち最大となる震度を、各地点で想定される最大の揺れ（「揺れやすさ」）としました。

揺れの強さの推定に当たっては、宮城県第三次地震被害想定調査の成果を活用しました。この調査については、http://www.pref.miyagi.jp/kikitaisaku/jishin_chishiki/index.htm を参照ください。